

平成26年度実施事業（報告）

基本目標1：地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」

施策1-① 市補助金の継続

○路線バスへの補助金【主体：市】

湯の沢線、名栗車庫線、間野黒指線、中沢線への補助金を継続。

施策1-② 観光やイベント等によるバス利用のさらなる促進

(1) ダイアシニアパスの社会実験【主体：ダイア4市、西武鉄道(株)】

所沢市、飯能市、狭山市、入間市で構成する埼玉県西部地域まちづくり協議会（通称「ダイアプラン」）と西武鉄道との連携事業として、5月16日（金）から1か月間、飯能駅からダイア圏域への西武鉄道と西武バスが5,000円で乗り放題となる「ダイアシニアパス」を実施した。

(2) 飯能ワンコインゾーンの1年間の実証実験【主体：国際興業(株)】

飯能駅を起点に市街地の一部区間を大人100円、小学生10円とする「飯能ワンコインゾーン」を5月16日（金）から1年間実証実験。

(3) 「名栗ホテル観賞の集い」での臨時バスの運行【主体：国際興業(株)】

7月5日（土）に名栗地区で開催された「名栗ホテル観賞の集い」において、イベント終了時に通常運行のバスがないことから臨時便を運行。

(4) 「ヤマノススメ」ラッピングバス作成及び運行

【実施主体：市、国際興業(株)】

テレビアニメ「ヤマノススメ セカンドシーズン」の放送に合わせ、「ヤマノススメ」フルラッピングバスを2台作成し、合計3台のラッピングバスを運行。

(5) 「ヤマノススメ」声優によるバス車内アナウンスの実施

【主体：国際興業(株)】

テレビアニメ「ヤマノススメ」の声優による車内アナウンスを10月4日（土）から実施。

(6) 「ヤマノススメ」を活用したイベント等の開催【主体：さわらびの湯】

さわらびの湯（名栗地区）でヤマノススメコーナーの設置やヤマノススメオリジナルグッズの販売などを実施。

(7) エコツーリズムによる利用促進【主体：ツアー実施者】

バス停を集合場所にしたツアー等の実施。

### 施策 1-③ バス運行環境の整備

#### ○バス停へのベンチの設置【主体：地域】

名栗地区まちづくり推進委員会で、名郷、さわらびの湯バス停に西川材で作製した木製ベンチを設置。

### 基本目標 2：路線バスを身近にして公共交通を「育てる」

#### 施策 2-① バス路線をわかりやすく見せるための取組の推進。

- (1) (仮称) 飯能市バスルートマップの作成【主体：市、協議会】  
分科会、協議会での検討を経て、26年度末に作成。

#### 施策 2-② モビリティマネジメントの推進【主体：市】

- (1) 公共交通ニュースの発行

月1回「公共交通ニュース」を発行している（市ホームページへの掲載、各地区行政センターでの掲示及び配布）。

- (2) 市広報による利用啓発、乗合バスについての情報発信【主体：市】  
4月1日号、6月1日号、7月1日号に掲載。

- (3) 市職員の通勤時でのノーカーデーの実施【主体：市】

7月、8月、12月に、公共交通が利用できる環境にある職員は各月最低1日は公共交通を利用することとした「通勤時でのノーカーデー」を実施。

飯能市長は毎週水曜日は可能な限り路線バスで登庁。

- (4) ギャラリーバス【主体：市、協力：国際興業(株)】

国際興業(株)の協力により、国際興業バスが誕生したときのカラーのバスをギャラリーバスとして運行。

10月18日（土）～12月7日（日）の期間において、小中学生が作成した「清流保全ポスター」を展示。

現在は、車窓から見る懐かしの風景の写真を展示中。

- (5) バス乗り方教室の開催【主体：地域】

原市場小学校で3、4年生を対象としたバス乗り方教室を地域の団体が主催者として実施。

#### 施策 2-③ バス利用のための利便性の向上

具体的な取組はなし。

施策2-④ バス路線の見直し等の検討  
具体的な取組はなし。

基本目標3：生活を支える公共交通手段を「つくる」

施策3-① 「おでかけ」を守るための検討

(1) 吾野地区の「たすけあいがの 移動交通部会」への出席

【主体：たすけあいがの移動交通部会】

吾野地区の「たすけあいがの 移動交通部会」との意見交換など

(2) 出前講座【主体：団体】

2団体から申込み。

施策3-② スクールバスの活用の検討  
具体的な取組はなし。